4 章　2016 年度 COC 事業による「地域貢献」

須磨区教育ボランティア交流会

神戸市看護大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
~地域住民との交流を活かした看護人材の育成と地域包括ケアシステムへのアプローチ～

2016 年度市民公開講座「震災を乗り越えた神戸からの発信～人・地域のつながり～」

2016 年度シンポジウム「在宅医療を進めるための多職種連携：在宅ケアのつながる力を育む」

2016 年度神戸市看護大学まちの保健室出前講座の実施

もの忘れ看護相談

健康支援

こころと身体の看護相談

その他の地域貢献活動

須磨区教育ボランティア交流会を開催しました

平成 25 年度の COC 事業採択の翌年度から、本学が導入している「教育ボランティア導入授業」を住民の暮らしにより近い場所で行う「コラボレーション教育（コラボ教育）」を、須磨ニュータウン地区で開始しました。本年度はコラボ教育を開始して、3 年目となります。コラボ教育は、須磨区北須磨支所保健福祉課の樫原課長様（当時）のご助言をもとに、竜が台地区、菅の台地区で実施することが決まりました。その後、具体的な演習方法や実施場所の提供など、各地区の民生委員児童委員協議会の高橋千栄子会長様（竜が台地区）、大角喜一会長様（菅の台地区、当時）を始め、民生委員の方々に多大なるご協力をいただきながら行ってきました。本交流会は、3 年間の感謝をお伝えするとともに、今後大学が行う地域との連携について意見を伺う機会として本年度新たに開催することを決定しました。またこれから取り組む COC＋事業では、神戸大学と連携して事業を行っていくため、神戸大学の地域活動の紹介をさせていただきました。

～プログラム～

【日時】平成 29 年 2 月 8 日（水）午前 10 時～11 時半
【場所】菅の台地域福祉センター
【内容】
開会挨拶（学長　鈴木志津枝）
感謝状・お礼状贈呈（※）
※感謝状は、竜が台地区、菅の台地区民生委員児童委員協議会様へ贈呈
お礼状は、コラボ教育の教育ボランティアにご登録いただいている方で、
平成 28 年度にコラボ教育に 1 回は参加いただいた方を対象に贈呈。
神戸市看護大学コラボ教育の報告（地域連携教育・研究センター　相原）
神戸大学の地域連携の取組み紹介（神戸大学地域連携室　藤本由香里氏）
教育ボランティアの経験談（西区在住　大屋庄平氏、中塩健彦氏）
意見交換会
「地域が大学に期待すること」をテーマに意見交換
次年度の取組み紹介、閉会の挨拶（地域連携教育・研究センター運営委員長　石原逸子）

教育ボランティアの経験談

✧ 大屋庄平氏「14 年前にがん告知を受け、入院しているときにお世話になった看護師に恩返ししたいという気持ちから、平成 19 年教育ボランティア募集を知り登録した。教育ボランティアとして参加するようになり、この 10 年間で 180 度生活が変わった。まちの保健室で健康測定をしてもらい、健康について相談することで、すっかり健康になった。また睡眠・起床時間、3 食規則正しい食事、貸し農園、老人ホームなどのボランティア活動など、様々な活動に参加するようになった。ボランティア仲間もでき、今のこの生活がとても楽しいと思う。自分の夢は、神戸市看護大学からノーベル平和賞を受賞する学生が輩出されること。その夢に向けて、これからも教育ボランティアとしてかかわっていきたい。」

✧ 中塩健彦氏「1996 年看護大学が西区にできたときに、何か希望がわくような感じを持った。その後看護大学の教員からの講演会に参加し、より看護大学が身近なものになった。大学で行われているまちの保健室にも参加し、そこで教えてもらった足の体操を今でも続け、その時にもらった万歩計を今でも持っている。自分の長い入院経験の中で何よりも看護師との関わりで救われることが多く、教育ボランティア募集を知り登録するようになった。学生の真剣なまなざしをみると、教育ボランティアが自分の生きがいになっている。」

意見交換でだされた内容

- 問診などの紙を記入するときに一人で書くよりも、学生と一緒に確認しながら行いたい。
- 教育ボランティアの活動の内容がパンフレットとして出されていないので、どのようなことをやるのかわからない。話しを聞ける機会があってもよい。
- 住民の参加が教育のどのようにつながるのか、目的、意味がわかるとよい。
- 住民との交流が少ないので、コラボ教育でコミュニケーションをとる機会をつくり看護のケアを行うことに生きてくると思う。
- 枠にはまった看護をするのではなく、「やんちゃ」な部分もあってよいと思う。枠をはずした教育を行うのもよいと思う。
- 在宅看護に関心のある学生を増やしていってほしい。
- 会場の借用など、地域の方からいろいろとご協力いただいている。
- 勤めている人も教育ボランティアに参加できるのかなど、内容がわかるように周知の仕方を工夫したほうがよい。

神戸市看護大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
～地域住民との交流を活かした看護人材の育成と地域包括ケアシステムへのアプローチ～

文部科学省 地（知）の拠点

事業の概要（神戸市の課題と神戸市看護大学の取り組み）

神戸市が2013年の神戸市保健医療計画において掲げる 市内９区の共通課題のうち、下記の課題に　取り組んでいます。

神戸市の課題	神戸市看護大学の取り組み
訪問看護人材の育成 →	訪問看護の教育強化 ★
医療連携の強化 →	継続看護の教育強化 ★
多職種・多制度のしくみづくり →	多職種間連携の組織化 ★
地域の見守りネットワーク構築や支援の充実 →	地域コミュニティの育成支援 ★

教育における取り組み ★

コラボ教育による地域の暮らしの理解と、生活の継続性を支える看護を重視した看護教育を推進しています。

●コラボ教育とは●

地域住民に模擬患者や授業協力者として参加していただく取り組みです（本学では協力者である住民を「教育ボランティア」として登録いただいています）

学生は、地域住民とのディスカッションを通して、個別差や世代差による生活習慣の違いを学んだり、実践に即した演習を体験し、地域住民は授業を通して健康情報を得たり、学生との交流を通して「役割」や「生きがい」を見出しておられます。

ヘルスプロモーション論（1年後期）

授業の1コマを地域住民のアクセスがよい会場で住民と共に受講する。

基礎看護技術演習Ⅰ（1年後期）

生活リズムと健康に関する講義を住民と共に学び、小グループで意見交換を行う。

＜地域住民の感想＞

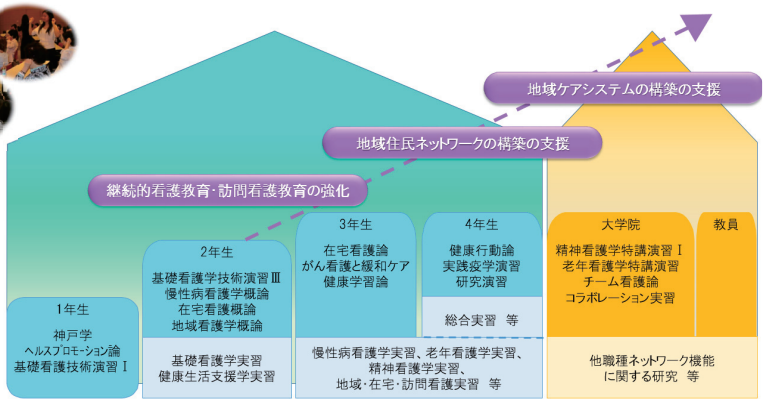
学生さんの生活リズムを知ることができ、楽しい時間だった。睡眠についても詳しく学べた。

＜学生の学び＞

元気に長生きするには十分な睡眠はもちろん、適度な運動、食事が大切だと強く感じた。82歳の元気な住民さんから直接このことを聞けたからこそ、説得力があった。

地域の暮らしを理解できる人材の育成
地域連携訪問看護を担う人材の育成

地域医療のコアとなる専門看護師の育成



基礎看護技術演習Ⅲ（２年前期）

学生が小グループで地域の交流拠点に出向き、学内で学んだ技術を使って、計測や、地域住民のヘルスインタビューを行う。

演習を通し、対象者に関心を持ち、相手の立場を考えながら関わる姿勢や、地域の暮らし、人の多様性を学ぶとともに、コミュニケーション力を身につける。

＜地域住民の感想＞
- 学生が非常に熱心だったので、今後の活動のお役に立てればいい。
- 去年も参加して、少しずつ身体の変化がわかり、よかった

＜学生の学び＞
- 病気はなくす（治す）ものだと思っていたが、病気による不自由さも含め、 その人の生活が成り立つように支援することも看護の役割だと思った。
- 患者としてではなく、「地域で生活している人の1人である」という見方を常に忘れないでいたい。

＜住民座談会における地域住民の声＞
- 健康測定の場で出会うことで住民同士、名前がわかり、挨拶だけでなく声をかけあうようになった。
- 計測を機にお互いに「どうや」と声をかけ合うという行動につながっている。

地域の交流拠点を会場に、民生児童委員さんの支援を受けて実施

健康学習論（3年後期 選択/保健師コース必修）

対象となる集団を想定し、グループで健康教育の企画・実施・評価を行ない、プロセスを学ぶ。

＜地域住民の感想＞
- 運動がいかに大切かわかった。
- もう少し自信をもって話をされるとよい。

＜学生の学び＞
- 手書きのチラシの効果や体操を続けていくという声があり、実施による目標が達成できた。
- 予期していない質問があり、回答に困った。

健康行動論（４年前期：選択/保健師コース必修）

住民に「日常生活」「健康に気をつけていること」をインタビューし、健康行動理論を用いた分析を行い、学内で発表する。

＜地域住民の感想＞
- 学生が一生懸命話を聞いてくれた。
- 運動がいかに大切かわかった。

＜学生の学び＞
- 健康問題が明確でない地域住民に対する健康維持のための援助とは何かを深く考えさせられた。

実習による継続看護の学び（2年～４年前期）

退院前カンファレンスをはじめ、さまざまな場面で、継続看護や多職種連携の重要性を学ぶ。

社会貢献における取り組み ★★★

＜まちの保健室＞★

まちの保健室は、本学と兵庫県看護協会西部支部が協賛して、地域住民の健康ニーズを考慮して活動している。COC事業では、対象地区の住民交流拠点に出向き、「出前講座」として、民生児童委員を対象に、認知症への理解を促進する「もの忘れ看護相談」や、コラボ教育後のフォローアップとして、ミニ健康講話を行っている。

＜シンポジウムの開催＞★★★

学生や専門職を対象に年1回開催し、下記のテーマについて共に学ぶ。

2013年度　キックオフシンポジウム　90名参加
2014年度 「地域住民とともに創る地域包括ケアシステム」　263名参加
2015年度 「地域での看取り～終末期を地域で過ごすということ～」　363名参加

研究における取り組み ★★

- 神戸市の課題である医療連携の強化実現のために、訪問看護や継続看護実践、多職種間連携のあり方の探求に取り組んでいる。
- 本事業では、地域ケアや地域ケアシステム構築に関する研究助成を行っている。具体的には、対象地区を中心とした神戸市の地域住民のケアとそれを支える多職種間ネットワーク機能について、本学教員が地域ケアに関わる保健医療福祉従業者等と共同研究を行っている。

＜市民公開講座の開催＞★★

学生や専門職を対象に年1回開催し、地域包括ケアシステムの中で住民自身ができること、地域の支えあいを通してできること、専門職や行政ができることを共に考える機会としている。

2014年度 「地域において認知症とどう向き合うか」　186名参加
2015年度 「支えあって変えていく～自分らしく生き、そして旅立つために～　139名参加